これからの部活動を考える地域クラブ活動シンポジウム　前半

【行政説明】
（スライド１枚目）
・皆様、こんにちは。埼玉県教育局保健体育課　学校体育担当　主任指導主事の塩原です。
・この時間では、学校部活動の地域クラブへの移行について、国の動向と県の取組について説明します。
・まず、国としては令和２年９月に「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」の文書を作成し、「休日の部活動の段階的な地域移行」を示しました。
・その後、令和４年 12 月に、スライドにある「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し、令和５年度から７年度を「改革推進期間」として、「休日の部活動の地域クラブ活動への移行」を各地域の実状に合わせてできるところから取組を進めることが望ましいとしました。
・埼玉県としては、このガイドラインに基づき、県としての推進計画を令和６年３月に策定し、その計画に基づいて取組みを進めていきます。

（スライド２枚目）
・埼玉県の中学生の人数と学校部活動数の推移です。
・一目見てわかるように、中学生の人数も、部員数も減っている傾向となっているのがわかります。
・また、子供の減少とともに、各学校の部活動数も減り、自分が通う学校にやりたい部活動がないといった状況もあります。

（スライド３枚目）
・今回の学校部活動の地域クラブへの移行について、スポーツ庁の説明資料がわかりやすいので、こちらで確認してみようと思います。多くの人のイメージは図の右側にある、「部活動をそのまま地域に移行する」ということだと思います。
・スポーツ庁や私たちが考えているのは、図の左側への移行です。(「スポーツ」だけでなく、音楽や絵画といった活動も該当する）
・子供を学校部活動としてのコンテンツにとらえるのではなく、学校にない競技や、学校では運動部に所属しているが休日は音楽や絵画を行うといった、学校部活動からの解放をイメージしています。
・そこで大事なのは、学校教育から社会教育の場への移行です。つまり、すでにあるスイミングスクールや体操教室、書道教室やバイオリン教室なども含めた多種多様な団体に子供たちが自分の希望で主体的に所属して自分のやりたい活動に取り組むということです。
・学校の延長ではなく、家庭や地域での活動が主体となります。

（スライド４枚目）
・こちらもスポーツ庁の資料から引用しています。
・活動のイメージとしては、①の市町村が各種団体と連携して地域クラブに指導者の派遣等を行う場合

と②のように、総合型地域スポーツ（文化）クラブ）や民間事業者の活動に子供が参加する場合を想定しています。
・しかしながら、直ちに①・②のような体制を整備することが困難な場合は、③にあるように、地域の人材を部活動指導員として活用し、部活動の指導に当たっていただく場合も想定できるとしています。

（スライド 5 枚目）
・県の推進計画における取組を挙げます。
・県として、今回のシンポジウムなどを通じて、県民をはじめとする関係者の皆様の理解促進や地域クラブ活動への移行が円滑に進むように市町村の取組を支援していきます。

（スライド 6 枚目）
・今年度の取組について、現状の報告を行います。
・運動部では、国の実証事業として委託を受け、今年度は 10 市町に再委託して実証事業を行っています。
・また、鴻巣市とふじみ野市については、市の補正予算が認められ次第、年度の途中から実証事業を行う予定です。

（スライド 7 枚目）
・県教委と各市町の教育委員会との委託事業とは別に、県民生活部スポーツ振興課と民間企業等が委託契約して行う実証事業として、今年度はこの 13 の団体が事業を行っています。
・ちなみに文化部では、今年度 3 市と委託契約を結んで実証事業を行っています。
・以上が地域クラブ活動と県の取組の概要です。

【トークセッション】
（司会）
それでは早速、本日のトークセッションのゲストである埼玉パナソニックワイルドナイツ内田啓介さんとアルカスクイーン熊谷、小出深冬さんにご登壇いただきます。内田さん、小出さんどうぞよろしくお願いいたします。

（内田さん・小出さん）
お願いします。

（司会）
熊谷市を拠点とするラグビーチームに所属されているわけですが、まず 2 人の輝かしい経歴を自己紹介の形で、内田さん、小出さんの順番でお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

（内田さん）

皆さん初めまして、内田啓介と申します。今年度で埼玉パナソニックワイルドナイツを退団することになりました。ラグビー自体は小学校 2 年生の頃からスタートしました。出身が滋賀県なんですけど、ラグビー自体そんなに盛んでもレベルが高かったわけでもなかったので、小学校 6 年生のときいろいろ将来のことを見据えて考えたときに、もうちょっとレベルの高いところに身を置いた方がいいだろうなというふうに考えて、中学校は京都の中学校に行くことを決意しました。京都でラグビーをしてレベルアップをはかって、そこからキャリアをスタートさせました。今回はその話の内容というか部活動というとこに関して、すごい当てはまるところが多い。今日はよろしくお願いいたします。

（小出さん）
皆さんこんにちは。アルカスクイーン熊谷所属の小出深冬と申します。私は現在、熊谷市に住んで 6 年目になりました。私は神奈川県横浜市出身で、小学校 2 年生のときに地元のタグラグビーのクラブチームでラグビーに出会えてから現在まで続けています。今は現役選手として活動しながら、セカンドキャリアの準備としてコーチングの勉強もしています。アルカスには、アルカスアカデミーとアルカスユースっていう中学生と高校生のカテゴリーもありまして、その選手たちと普段接しながら、より女子ラグビーが発展していくためにはどうしたらいいかって考えながら活動しているので、今日これを機にまた新たな考えを持ちながら今後活動していきたいなと思っています。よろしくお願いいたします。

（司会）
ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。実は私もですね、このジャージを着ている理由もあるんですけど、ラグビーをやっておりまして、私は熊谷出身でレフリーをやっていて内田さんが出ていた試合とか、小出さんが出た試合に関係していたこともあるんです。その当時は選手とレフリーの関係ですから全然面識という形ではないんですけどもこうやってご縁をいただけるのも私自身も嬉しく感じており、ぜひ、お 2 人からお話をしていただけたらと思います。それでは話を伺いたいなと思ったんですけど、もう少しですねラグビーを始めたきっかけと、特に小出さんの場合は女子ラグビーがオリンピックの種目にもなりましたし、広く広報されていると思いますけどもラグビーとの出会いや内田さんも先ほど滋賀県から中学生で京都に行かれ、なぜいろんなスポーツの中からラグビーを選んだのかっていうのを聞かせていただけたらと思います。よろしくお願いします。

（内田さん）
そうですね僕自身、スポーツ一家として生まれて、親もスポーツやってて、自分の兄弟もスポーツをやってました。自分もスポーツをやるというタイミングで、周りの友達は野球とかサッカーがメジャーといいますか、みんなでこうやりやすいようなスポーツを選んでたんですけど、僕はなんかそのときにみんながやってるスポーツを選んでも有名になれないっていうちょっとネガティブな感じで、誰 1 人やってないラグビーだったら、有名になれるんじゃないかっていう発想でラグビーを選んだという軽いきっかけというか、それでラグビーを選びました。

（司会）
それで日本代表にもなったというのはすごいそこからの努力もあったかなと思うんですけど。

（内田さん）
それこそ中学校に行って素晴らしい先生であったり、素晴らしい指導者の方に出会えたことが僕にとって幸せでそれがなければ僕はここに立ててないのかなというふうに思っています。

（司会）
すごい指導者との出会い、いろんな出会いがあったってことですね。
小出さんの方はいかがですか。ラグビーとの出会いは。

（小出さん）
私は横浜市出身ってお話させていただいたんですけど、あの関東学院大学のラグビー部の皆さんがラグビー教室を開いていて、そこに二つ下の弟が通っていて、弟も幼稚園生だったのでラグビーっていうラグビーじゃなくてただ鬼ごっこしてるだけの感じだったんですけど、それを見て私もその輪の中に入りたいなっていう思いがあって始めたのがきっかけでした。その当時やっぱり周りにはラグビーやってる人だったり、ラグビーを知ってる人も多くなかったんですけど、私が行ったクラブチームには女子ラグビー界引っ張ってきた鈴木あやかさんだったり山口まりえさんという偉大な先輩方がこのチームに所属していて、そういう先輩たちと一緒にラグビーをしたいと思ってクラブチームでずっとラグビーを続けていました。

（司会）
ありがとうございます。あまりラグビーをご存知ない方のためにちょっとだけ補足させていただくと、内田さんは京都の今は京都工学院高校、昔は伏見工業高校の出身で 50 歳より上の方は伏見工業はスクールウォーズというと一言でわかっていただけるか、そこの高校の出身になります。ちょっと質問を変えて、そのラグビーとの出会いがあった中で、スポーツを通じて学んだこととか身についたことがあれば教えていただければと思います。

（内田さん）
ラグビーという競技の特性になるんですけども、ラグビーは 1 回フィールドに入ると、監督やコーチから指示を常にもらうことができなくて試合が始まったら終わるまでの間、選手同士で考えて遂行していかなくちゃいけない。
勝つためにどうやって作戦を練っていくかっていうところまで、選手同士でやっていかなくちゃいけないという側面があるんですけども、その中で、考えて判断して決断して遂行するっていう、そのサイクルの速さだったり正確さというものを求められていました。なので、ラグビーをやっていたから、日常生活でもそういう良い判断だったり、いい決断ができるのかなというふうに思いますし、またその私生活でやってる判断だったり決断っていうのがグランドでも表現されるっていうふうには自分は考えていたので競技特性の中から自分が必要とする能力っていうのはすごい身についたかなというふうには思っています。

（司会）
小出さんいかがですか。

（小出さん）
私はコツコツ努力し続けたことはいつか身になるっていうことを、スポーツを通じて感じてきました。やはりスポーツの世界なので勝負がやっぱり決まってしまうので、必ずしも良い結果に繋がるとは限らないんですけどあのとき続けてたから今これができるなって思うことは、多々ありまして、すぐに止めずにコツコツ続けることが大事なんだなっていうことを今まで学んできました。

（司会）
ありがとうございます。内田さんがおっしゃったみたいな試合中に監督がなかなか入らないっていうのはラグビーの特性の一つ、ラグビーで学べることの一つかなと思いますけども、例えば内田さん小出さんは、他のスポーツを見ていて、もっとこのスポーツこうしたらいいのにとかラグビーとはちょっと違うなって感じたことってあれば教えてください。

（内田さん）
羨ましく感じることはあります。タイムアウト取れたりとか、監督のタイミングで助言したいときに時間をとって作戦を考えられるっていうのを見てると、うらやましいなと思います。

（小出さん）
私も本当にテレビで見る世界なので、詳細はわからないんですけど、やっぱり個人種目とチーム種目っていうのはすごく違うなって感じていて、個人種目はやはり自分で全部考えて決断してやらなきゃいけない中でコーチとの対話っていうのをすごく多く重ねてるなっていうのをいろんな選手の経験談を聞いて感じていました。

（司会）
ありがとうございます。ちょっと質問をガラッと変えたいと思いますが、今までお 2 人ずっとラグビーに携わっていましたけれども、学生時代とか、中学高校大学とかも含めて実はこれやってみたかったんだよなっていうようなものがあれば他のスポーツでもいいですし、他のことでも何かあれば教えていただければと思います。

（内田さん）
僕はもう全くスポーツではないんですけども、工業高校生だったということもあるんですけども、何かを作り上げるっていうのは僕すごい好きで、思い返すと昔からテレビで特集やってる料理人だったり宮大工とかをすごい見てしまうというのがありました。何か伝統のものを作り上げるだったり何か創造していくっていうものは興味があるので全く関係ないんですけど、そういうことを生まれ変わったらやりたいなと思っております。

（小出さん）
私は全然真面目な話ではないですけど、バイトをしてみたかったなって今振り返って思います。高校生のときも大学生のときも、バイトせずに本当に学業とラグビーしかしてこなかったので、そういう働いて何かやってるっていう友達にすごく憧れてたので、バイトやってみたかったなって思います。

（司会）
例えばどんなバイトをやってみたかったですか。

（小出さん）
夢はスターバックスの店員さんになることだったので、そこでバイトしてみたかったなって思います。

（司会）
多分今からでもいけると思います。スターバックスも多分人気が出ると思います。

（小出さん）
セカンドキャリアの一つとして考えます。

（司会）
先ほど私の方で、行政説明をさせていただいて、中学校の平日は学校の部活動をやったとしても、土日は違う活動をやってもいいというような、そういう形で地域の活動に移っていくかもしれません。中学生の年代で、こんなことやってたらいいんじゃないかとか、ラグビーに集中してたお 2 人が、実はもっとこれやった方がいいとかあれやった方がいいとか、色々な思いがあれば教えていただければと思うんですけど。

（内田さん）
ちょっと地域移行ってなるとやっぱり専門的なことを教われる機会ってのもあるんですけど、僕は本当にラグビーしかやってこなかったので、本当に色々なスポーツに触れるっていう時間もあっていいのかなというふうに思うので、これといって答えはないんですけども、色々なものに触れる時間っていうのは大切なんじゃないかなって僕自身は思います。

（小出さん）
私が中学生のときは学校の部活で陸上部に所属していて、クラブチームでラグビーをやっていたんですけど、学校の部活以外のコミュニティに参加することはすごく良かったなって感じています。やはり部活動だけだとすごい近い年代の方だったり先生との接点しかないんですけど、コミュニティの地域クラブ活動に参加することで、他の学校の子だったり、自分が普段接してない大人に接して、いろんな人の考え方を学ぶっていうことができたと思うので、そういう部活動以外のコミュニティに参加するっていうことはすごく有意義なことだなって思っています。

（司会）
小出さん、中学校のときは陸上部に所属してたとのことだったんですが、内田さんと小出さん、実はラグビー以外でこのスポーツ得意なんだとか、こういう趣味というか、文化的な活動得意なんですとか、何かありますか。

（内田さん）
僕、絵を描くことが得意です。

（小出さん）
私は結構不器用な方なので、ラグビー以外は向いてないねってすごく言われ続けてたのですが、ラグビーの次に長くやったことでピアノ９年間やってたので、当時は得意だったなって思います。

（司会）
ありがとうございます。できたらこれからの子供たちには、私も教員としてもそうなんですけど、色々多様な時代で、色々な興味をもったものをやってもらえたらなって思っています。またちょっと質問を変えまして、今の子供たちの今後の生活や成長にとって、スポーツや文化芸術活動はどのような意味を持つとお考えでしょうか？子供たちにどのようなスキルや価値観を身に着けてもらいたいとお考えでしょうか。

（内田さん）
僕はスポーツに救われた人生で、人生が豊かになるし、自分の才能を爆発させることを見つけることも活かすこともできる素晴らしいものですし、それを通じて生きる力などを身に着けることができるので、ただそれにのめり込むっていうことではなくて、いろんな生きる力っていうのを身につけられるものではないかと僕は思っています。

（小出さん）
私は繰り返しになってしまうんですけど、本当に色々な人に会って接するっていうことを繰り返してほしいなって思っています。生きていく中やっぱり自分と違う考え方だったり価値観を持った人ってすごくたくさんいると思っていて、でもそれを考え方が違うからって否定するんじゃなくて、それを受け入れて、社会の中でどう人と接していくかっていうことを中学生だったり高校生だったり若いうちから、他者を尊重するということをスキルとして、身につけていってほしいなって思います。

（司会）
ありがとうございます。
小出さんにお伺いしたいんですけれども、実際アルカスアカデミーに指導に出る場面で何か感じていることとか、実際に学校を超えたクラブ活動だと思うので、そこで感じることがあれば教えていただければと思います。

（小出さん）

アカデミー生として接する中でラグビーに興味を持ってくれたり、ラグビーをやりたいって思う女の子が増えたなとすごく感じています。でもなかなか自分の地元のチームで、女の子がラグビーできる環境がなくて、ちょっと遠いけど熊谷まで来てますっていう子も多くいます。中学生までは女の子も男の子たちと一緒にラグビーできるんですけど、それよりカテゴリーが上がってくるとなかなか一緒にできるっていうことが少なくなってくるので、まだまだ女の子がラグビーできる環境っていうのは整ってきてないんだなっていうことを感じています。

（司会）
ありがとうございます。なかなか全部の地域に全部のスポーツ種目のクラブを用意するのは難しいかなって思うので、やっぱり市を超えたり学校を超えたりという環境ができてきているのかなと思います。ちなみに内田さんについては現役を引退して教員を目指すっていう報道がありましたけども、これから学校の先生になられるということで、どのような指導をしていきたいとかそういう今の夢があれば教えていただければと思うんですけど。

（内田さん）
ラグビーの指導ももちろんなんですけども、人間教育っていうところは本当に自分もしてもらったり、それはしてあげたいというか、大事にしていきたいなっていうふうに思います。本当にラグビーを通じて思うことは、良い人間が良いプレーヤーになってるというのが本当に間違いないことなので、本当いい人間、いい選手に育ててあげたいなと思います。自分が経験したことを還元して、ちょっとでも役に立てればなと思っています。

（司会）
ありがとうございます。ちなみに今地域クラブへの移行という動きになっていますが、中学生にとっては地域クラブっていうか学校を超えた活動っていうのも必要になってくる。そういう学校を超えたクラブ活動において子供たちの成長を促すために重要な要素、今までももう何回かお話いただいてますが、お2人が考える、指導するときに気をつけることがあれば教えていただければと思います。

（内田さん）
学校の部活動っていうと、やっぱり学校教育の延長線上に部活動があり、教育の一環としてラグビーを教わって、人間教育をしてもらった側面があるので、地域のほうではスポーツに特化したことを教えることも大切なことだと思いますし、それとプラスしてやっぱりそういう人間力っていうのを高めるような指導というのも僕自身はすごい必要だと感じています。

（小出さん）
私は、大人が一方的に否定しないことが重要だなって感じています。子供は自分が感じたことをそのまま表現したりするので、大人が想像してないようなことをしたり考え方を持ってたりすると思うんですけど、大人がやっぱり一方的に教えたりすることよりも、子供が自分で感じたことから得る学びというのはすごく多いと思うので、一方的に否定しないことがすごく重要だなって思っています。

その中でやはり社会のルールであったり礼儀だったり、大人がしっかり子供に対して教えなきゃいけないところは教えるっていう、そのバランスをとった中で、大人が子供と接していくっていうことがすごく大事じゃないかなって思います。

（司会）
ありがとうございます。今も、内田さんも小出さんも人間教育、スキルだけじゃないところの教育っていうお話をいただいてますけども、何か中学校とか高校のとき、小出さんはラグビークラブの活動ときに受けた教育についてエピソードがあれば、教えていただければと思います。

（内田さん）
本当に日常生活でやってることはもうそのままグラウンドで叩き込まれてきました。授業中例えば、眠かったら寝る生徒もいる。寝ない選択もできる。その自分の負けそうなときにじゃあどう頑張ってその時間と向き合うのか、というところはラグビーのそのしんどい状況に置き換えることができるよっていうことを本当に叩き込まれてきたので、本当に貴重な経験だったなって振り返れば思います。

（小出さん）
私は先ほどお話させていた通り、中学校のとき陸上部とラグビーの両方をやっていたので、やはり土日になってくると大会がかぶってしまうことが何度かあって、でもどっちも出るってことはできなかったのでどっちかを選択しなきゃいけないっていう状況が、何回かありました。でも、陸上部の先生には今回はこういう理由でラグビーの方の大会に出たいんですだったり、ラグビーのコーチの方にこういう理由で今回は陸上の大会出たいですって、今考えたらすごくわがままな選択ではあったかもしれないんですけど、私の選択を否定したコーチや先生はいなくて、そっちで出るって決めたんだったら頑張ってねって送り出してくれた先生もいたので、そういう環境があったからこそ自分の選択に自信を持てたっていう中学時代でした。子供が決めた選択っていうのを尊重できる先生だったりコーチっていうのが、子どもにとってはすごく必要な存在になるのかなって思いました。

（司会）
ありがとうございます。お 2 人のお話を伺っていて、やっぱりいい指導者に出会えたっていうことがラグビーも含めてスポーツを続けられてきたということに繋がるのかなと思います。ちょっとまた話を変えて内田さんの場合は大学時代に日本代表に選ばれ、小出さんは高校のときから日本代表に選ばれてそれぞれの所属チームと日本代表という違うチームに選ばれるときのチームの中の関係とか、ご自身のこういった思いで両立したっていうことがあれば、教えていただければと思います。

（内田さん）
僕は、教員になりたいっていう思いを抱いて筑波大学の方に進学させてもらって、頭がいいわけではなかったので、授業とかもついていくのが本当に精いっぱいでその中で代表活動ってなると授業に穴を開けなくちゃならないっていうのがあって、そう考えて自分がどういう選択をしなくちゃいけないのかを考えるいい機会にもなりました。こんなに若くして日本代表で選んでもらえるっていうそのチャンスをも

のにするか、将来に向けてちゃんと今大学の場で勉強するのかっていう両者を自分の中で選択をしなくちゃいけないすごいいい経験になりました。大学時代はキャプテンも経験させてもらいましたが、チームにいないという状況をつくってしまうこともあり、色々な方に迷惑をかけることもあったが、そういうことがあったから、この今があるのかなって思っています。

（小出さん）
7 人制の代表に選ばれたのは高校 3 年生のときで、その当時クラブチームでは最年長として活動していて、やはりそのチームの中では年下の子たちを引っ張ってなきゃいけないっていう存在でした。代表チームに入ったときは最年少だったので高いレベルでやってきた先輩たちに何とかして這いつくばってでも追いついていかなきゃいけないっていう、そういう立場の違いはあったのかなっていうのを感じています。でもその高校のクラブチームの方で、キャプテンとしてもリーダーシップを求められていたからこそ代表チームに上がったときに、年齢関係なくもっと自分が思ったこと言わなきゃいけないし、引っ張っていかなきゃいけないんだよってコーチから言われたので、リーダーシップをどっかで発揮するっていうことに対しての抵抗はあまりなくて、チーム最年長としてやってきたからこそ、次のチームでもいかせたという経験はすごい今でも生きてるなって感じています。

（司会）
ありがとうございます。いろいろな場面でのそれぞれの出会いがあって、そこでの葛藤があって今のお二人がいるっていうことが本当によくわかるエピソードありがとうございます。今トークセッションを始めて 30 分経ちましたがせっかくですので会場の皆様からお 2 人に質問をいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

（質問者 1）
自分は中学校の卓球部の顧問をやっているのでちょっとお聞きしたいんですけど、先ほど素晴らしい指導者に出会ったというのがありまして、その辺をちょっと詳しく教えていただけたらなと思います。できたら内田さん、小出さんに今まで印象に残った指導者とはどのような指導者だったのかということを教えていただければなと思います。

（内田さん）
僕が一番最初に出会った本当に素晴らしい指導者は、中学校時代のイナダ先生という先生です。本当に当たり前のことを当たり前にやりなさいとか、基礎基本ができない人間は何やってもできないよってことは常日頃言われていたので、僕たちの中学校はその戦術戦略というよりはもう基礎基本を本当に 3 年間徹底的に叩き込まれたという経験があります。今思うと世界で戦っているプレイヤーは、基礎基本が本当に上手で、トッププレイヤーに下手な選手はいないなって思います。基礎基本を大事にしている選手が今活躍しているので、中学生年代には基礎基本を叩き込むというのは大切なのかなと思います。またそれだけじゃなくて、日常生活のところでも当たり前のことを当たり前にできる人間を育ててもらえたっていうことは本当に財産だと思っているので、そこは自分にとってはいい経験だったかなというふうに思います。

（小出さん）
私が小学生や高校生まで所属していたクラブチームのコーチは、内田さんもおっしゃった通り、本当に基礎基本をできないといいラグビー選手になれないっていうのをすごく指導してくださった方でした。他のところでも私は日本代表になってオリンピックに出たいっていう目標を言ったときからまだそんなんじゃ日本代表になれないよって、いい意味でプレッシャーをくれたコーチで、そこで諦めたら代表になれないよって常に言ってくれましたし、世界で戦う選手っていうのはどういう選手なのかっていうのを常日頃から私に教えてくれました。常に私はどこを目指せばいいのかっていう目標値っていうのをすごく考えながら、普段練習に励むことができました。

（質問者２）
地域クラブでも指導してるんですけども、小学校から中学校になるとやはり競技性が上がるんですけれども、そこのギャップをどう教えるのかをお聞きしたいんですが、どうでしょうか？

（内田さん）
小学校のうちは本当にその競技というかそのスポーツそのものを楽しむ、全力で楽しむっていうことを提供することが僕自身は大事なんじゃないかなというふうに思います。運動だったりスポーツっていうのは、元は楽しむためにやるものだというふうに僕は感じているので、楽しくなかったら、上手くなりたいとも思わないだろうしっていうのがあるので、楽しむことっていうのを大前提として指導してあげて、中学生からその競技をやるにあたって一番大切なことを順番に教えていってあげるっていうのが、僕的には大事なんじゃないかなというふうには思っています。

（小出さん）
やはり中学生になると、競技の専門性も上がってきて、よりスポーツの世界だと勝敗が決まりやすくなる状況が多いと思います。でもその中でも勝ち負けだけじゃなくて、競技の楽しさを知ることができたり、部員だったりチームメートと何かを達成するっていう楽しさっていうのを感じる指導ができれば勝敗よりも続けやすくなる環境が私は作れるんじゃないかなって思うので、もし専門性が上がったとしても勝ち負けだけじゃない他の何かを生徒に感じさせられる環境作りっていうのがすごい重要になるんじゃないかなって感じています。

（司会）
アルカスは熊谷市の小学生にタグラグビーを教えていますが、ラグビーを知らない子や小学生のような小さな子供に指導する際に気を付けていることが何かありますか。

（小出さん）
一番大事にしていることは全員で協力してやるということです。今日は、全員で協力してやりましょうというふうに授業の最初に言っています。ラグビーはチーム競技なので、誰かがさぼってしまったり、手を抜いてしまうとトライにつながらなくなってしまいます。なかなか接することのない子とチームを組ま

ないといけない状況もあると思うんですけども、そういった中でも協力してやるということを意識しています。誰かができていなかったら、私たちが何か指導するというよりも、チーム内でどう改善していったらいいか話し合おうというコーチングを心がけています。

（質問者３）
クラブチームの指導者をやっていますが、日本の現状として、小学生の頃から１つの種目を勝利至上主義でやるところがあり、小さいうちから色々なスポーツを経験した方がいいなと思いますが、お２人の考えを聞きかせください。また、中学生は成長期にあるが、精神面や体力面等に関して、指導者としてのアドバイスをいただけたらと思います。

（内田さん）
僕も日本のスポーツの関わり方に疑問を持ったことがあります。海外であれば、シーズンでやるスポーツが変わったりするのが当たり前にあります。現状のシステムを変えることは難しいが、個人個人でやりたいことを見つけて取り組むことは全然いいと思うので、１つのスポーツに打ち込むだけでなく、他にやりたいことがあればそれをやるべきだと思います。もし、指導者になったときにそういう生徒が現れたら僕は認めてあげたいですし、ラグビーだけをやる必要はないし、それを決めるのは生徒自身なので、考え方や行動を自分で決めてやるのは素晴らしいことだと思います。
発達段階の子供に対しては、ラグビーはよく筋力トレーニングをしなくちゃいけないスポーツですが、年代によって体の成長は全然違うと思いますし、体のつくりも違うので、皆がみんな同じことをやっても、同じ成果を上げられるとは思っていないです。各選手にあったプログラムや体の育成の仕方があると思っていて、特に発達段階にある子供に対して、筋力トレーニングは推奨しないですし、柔軟性やアジリティ等その時期、その体でしかできないことがあると思います。筋力トレーニングは大人になってもできることなので、その時にしかできないことにフォーカスして、必要なことを必要な時期にやることが必要だと思います。

（小出さん）
私も今のこの日本のクラブチームの環境だと、やはり練習に来ないと試合に出さないよっていう考えがすごく強いなっていうのを感じています。やはりチームスポーツだと連携とかあって、その選手がいないと成り立たないっていう状況かもしれないんですけど、そういう状況だからこそ色々な競技をやりにくいっていう環境ができてしまっているんじゃないかなって感じています。なので、もう周りの大人が色々な競技をやる、色々なことをやる、そしてチャレンジしてみるっていう、その姿勢っていうのを認めるっていうところがまず大事なんじゃないかなって思っています。なので、どれだけ練習に参加できなくても別のやり方で補填できる方法もいっぱいあると思いますし、そういうやり方を知らないっていうだけでもできないことが増えてしまうので、まずコーチだったり大人がそういう環境づくりっていうのを学ぶところから始めていくべきなのかなっていうのを感じています。
2 点目の心身の発達のところなんですけど、やはりこちらも自分の経験談で語ることはすごく簡単だと思うんですけど、新たな知識をつけて、どんどん自分の中でアップデートしていかないと、こっちもそのときに適した指導っていうのができないと思うので、学ぶ機会っていうのを大人が作ってしっかり学んで

いくことが大事なのかなっていうのを感じています。女の子は特に中学生なるとどんどん体の発達も変わってきますし、それこそ個人差もあると思うので、そういう個人差に対応できるような適応力っていうのを身につけていくべきだと思います。自分のその専門競技のことに関する知識だったり、スキルだけじゃなくて、そういう身体の発達段階だったり、それに対するアプローチっていうのを学ぶ機会を増やして、自分はそういう引き出しがいっぱいあるコーチになっていきたいなっていうのをすごく感じています。

（司会）
それではそろそろ終わりに近づいてきましたので、最後お 2 人にですね、今後のスポーツ界に立つ子供たちと、そういう地域クラブを担う、運営するであろう大人たちへのメッセージをお伝えいただけたらと思います。よろしくお願いします。

（内田さん）
中学生に関しましては、本当にいろんなものに触れて欲しいっていうのは、すごい一番あります。どんな選択をしても、それを正解にするのは本人なので、どんなことをしても僕はいいと思います。
そんな中で、本当にやりたいことを見つけて頑張っていって欲しいなと思いますし、その根底に楽しむことだったり、一番大切なことは何なのかと考えて、基礎基本っていうところを大事にしてこれから頑張っていって欲しいなというふうに思います。
大人の方に向けては、そうですね、子どもがいい発育発達をしていくために良い環境を作っていくのが大切だなというふうに思います。良い選手にするのか、悪い選手にするのかは本当にどういう人に出会うかが大事なので、良い環境づくりを大切にしてほしいです。

（小出さん）
中学生高校生、小学生の皆さんには、本当にいろんなことにチャレンジしていって欲しいなと思います。将来ああなりたいっていう思いを持っていろいろチャレンジしていくと思うんですけど、その過程でもしかしたら別の道へ進むかもしれません。これはチャレンジしたからこそ得られた学びであったり、道であると思うので、逆にチャレンジしなかったらそういう人の出会いだったり、いろんな学びっていうのは得られなかったかもしれないので、自分はこれしかできない、これをやるためにはこれだけやればいいっていう、こう制限かけるんじゃなくて、本当にいろんなことにチャレンジして、いろんな価値観や学びっていうのを得てほしいと思いますね。
大人の方々にはもうすでに現場でいろいろな活動されている方々に、私から言うのはすごく恐縮なんですけど、子供がチャレンジしていく環境を作るっていうのは大人の役目だと思いますし、大人こそチャレンジしていかないと環境というのは変わっていかないと思うので、これからいろんな課題を解決していくために、いろいろ労力を持ち出さなきゃいけない状況もあると思うんですけど、子供の成長のために大人がまず頑張らないといけないって思うので、私たち選手もアルカス熊谷のチームも一緒にこう地域クラブを盛り上げていきたいと思いますので、また一緒に頑張っていけたらなと思っています。

（司会）

本日はお忙しい中、楽しく貴重なお話をありがとうございます。内田さんは現役を引退されて今シーズン新しいチームの役職でシーズンインをこれからまた迎えるということで、小出さんはまだまだ現役ということで、まだ公式戦もあるということなので、ぜひ充実したシーズンを迎えていただければと思います。今後のお二人の活躍とチームの活躍を祈念しまして、今回のトークセッションを終了させていただきたいと思います。
長時間にわたりありがとうございました。